

指標名:消費動向調査(2013年4月)

発表日:2013年5月15日(水)

~消費者マインドは4月も改善~

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 星野 卓也

TEL: 03-5221-4526

		消費者態度指数 (一般世帯、季節調整値)		消費者意識指標							
				暮らし向き		収入の増え方		雇用環境		耐久消費財の買い時判断	
				前月差	前月差	前月差	前月差	前月差	前月差	前月差	前月差
2012	7	36.1		36.3		35.4		34.1		38.5	
	8	37.3	1.2	37.1	0.8	36.2	0.8	35.5	1.4	40.3	1.8
	9	37.0	-0.3	36.8	-0.3	36.4	0.2	35.4	-0.1	39.5	-0.8
	10	37.1	0.1	37.0	0.2	36.8	0.4	35.1	-0.3	39.3	-0.2
	11	36.8	-0.3	36.5	-0.5	37.0	0.2	34.8	-0.3	39.0	-0.3
	12	37.7	0.9	37.6	1.1	37.5	0.5	36.7	1.9	39.1	0.1
2013	1	42.6	4.9	41.2	3.6	39.6	2.1	46.5	9.8	42.9	3.8
	2	42.3	-0.3	39.9	-1.3	39.9	0.3	47.0	0.5	42.5	-0.4
	3	43.1	0.8	40.6	0.7	40.2	0.3	48.8	1.8	42.9	0.4
	4	44.5	1.4	42.0	1.4	41.5	1.3	49.0	0.2	45.4	2.5

※2012年7月～2013年3月までは、試験実施された郵送調査の値。

(出所)内閣府「消費動向調査」

## ○消費者マインドは回復傾向を維持

4月の消費動向調査によれば、消費者マインドを示す消費者態度指数(一般世帯、季節調整値)は前月差+1.4ptと上昇した<sup>1</sup>。株価上昇や雇用環境の持ち直しを背景に、消費者マインドは改善が続いている。

内訳をみると、指数を構成する4項目全てが改善しており、「耐久消費財の買い時判断」(前月差+2.5pt)、「暮らし向き」(同+1.4pt)、「収入の増え方」(同+1.3pt)が高い伸びとなっている。「雇用環境」(前月差+0.2pt)も伸びは小幅だが、年初の急上昇の後にも関わらず改善が続いており、基調は強い。また、「資産価値の増え方<sup>2</sup>」は前月差+2.8ptと上昇した。日銀による大規模緩和決定後の株価上昇が、マインド改善につながった可能性が高いだろう。総じて、求人増加や株高の進展、安倍政権に対する期待を背景に、消費者マインドは改善傾向での推移となっている。

同時に調査を行っている家計の1年後の物価見通し(一般世帯)をみると、「上昇する」と回答した世帯割合は、前月差+3.7%ptの増加となった。食料品や電気代などの値上げ報道が相次いだことや、円安の進展が背景にあると考えられる。

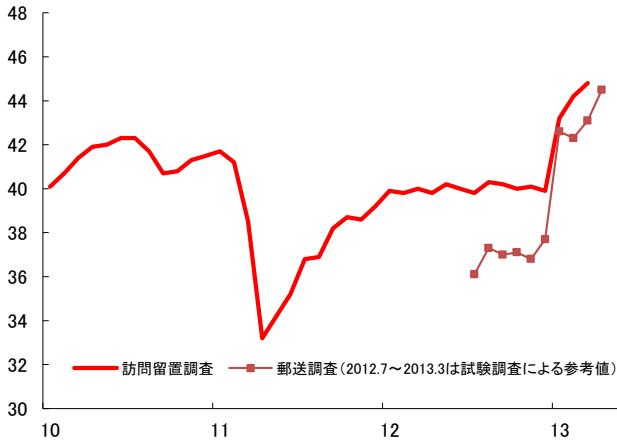
## ○先行きの個人消費は雇用の回復にも支えられ、底堅い推移となる見込み

このように、4月の消費者態度指数は良好な結果となった。所得の回復感は乏しいが、個人消費はマインドの改善を背景に堅調に推移している。4月の消費については天候不順の影響もあって、一服する可能性があるが、基調としてはマインドの改善を下支えに、増加傾向での推移を辿ると見込まれる。さらに夏にかけて雇用の回復が見込まれる点も、先行きの消費にはプラス材料だ。個人消費の腰折れリスクは小さいと考えられ、今後も底堅い推移が続くものとみている。

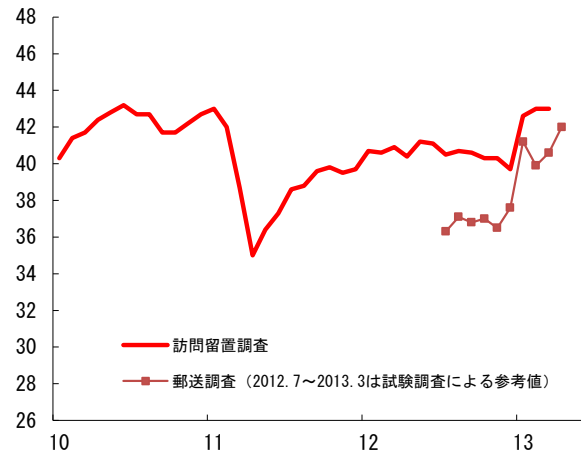
<sup>1</sup>4月調査から、訪問留置調査から郵送調査に調査方法が変更されており、データに不連続が生じている。そのため、本稿での「前月差」は、2012年7月から2013年3月に試験実施された郵送調査における参考値との差を示している。

<sup>2</sup>消費者態度指数の構成項目ではない。

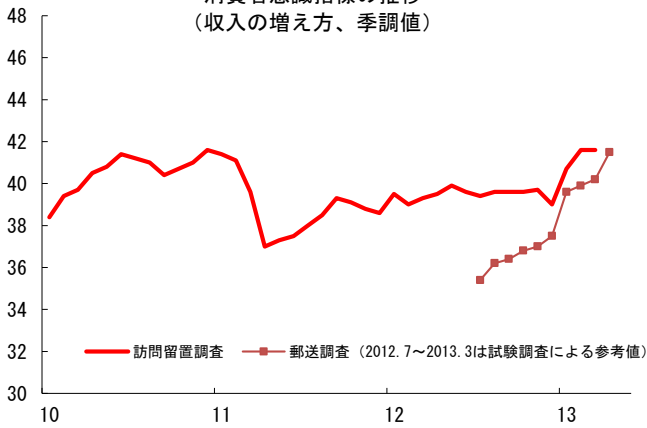
消費者態度指数の推移(季調値)



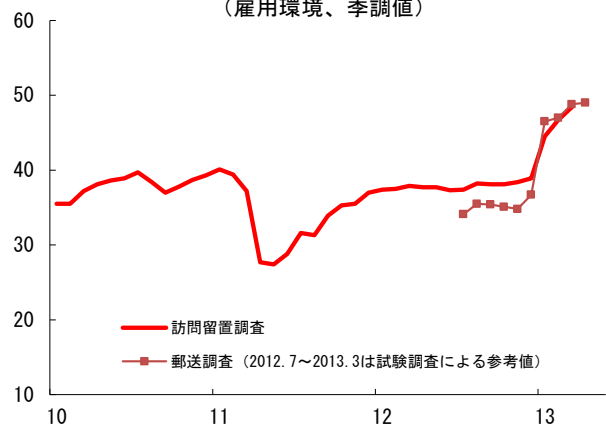
消費者意識指標の推移 (暮らし向き、季調値)



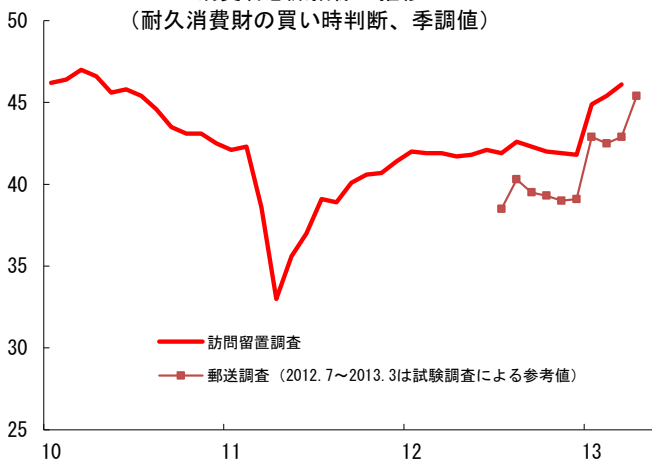
消費者意識指標の推移 (収入の増え方、季調値)



消費者意識指標の推移 (雇用環境、季調値)



消費者意識指標の推移 (耐久消費財の買い時判断、季調値)



消費者意識指標の推移 (資産価値の増え方、季調値)



※出所はすべて、内閣府「消費動向調査」